

分 野	基礎分野																					
科 目 名	1. 生物学	【一般目標】 生体の構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を習得する。																				
单 位	2	【到達目標】 1. 生物の基礎的な仕組みを理解する。 2. 歯科医学分野への基礎知識を習得する。																				
時 間 数	30																					
授業形態	講義																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期																					
担当講師 実務経験	中村大輔 岩田泰億 歯科医師としての実務経験あり	【授業計画】 <table border="1"><tr><td>1・2・3</td><td>生命とは・生命の誕生と変遷について</td></tr><tr><td>4・5・6</td><td>細胞をつくる物質・生命の単位：細胞</td></tr><tr><td>7・8・9</td><td>細胞のさまざまな活動・細胞の一生</td></tr><tr><td>10・11・12</td><td>ヒトの組織について・ヒトの器官</td></tr><tr><td>13・14・15</td><td>生殖・減数分裂・遺伝と遺伝子</td></tr><tr><td>16・17・18</td><td>遺伝子を働かせる仕組み・発生の過程</td></tr><tr><td>19・20・21</td><td>発生の仕組み・刺激の受容と反応</td></tr><tr><td>22・23・24</td><td>神経系・ホルモンと働き</td></tr><tr><td>25・26・27</td><td>生体防御・動物の行動</td></tr><tr><td>28・29・30</td><td>ヒトの進化と未来・生物学のまとめ</td></tr></table>	1・2・3	生命とは・生命の誕生と変遷について	4・5・6	細胞をつくる物質・生命の単位：細胞	7・8・9	細胞のさまざまな活動・細胞の一生	10・11・12	ヒトの組織について・ヒトの器官	13・14・15	生殖・減数分裂・遺伝と遺伝子	16・17・18	遺伝子を働かせる仕組み・発生の過程	19・20・21	発生の仕組み・刺激の受容と反応	22・23・24	神経系・ホルモンと働き	25・26・27	生体防御・動物の行動	28・29・30	ヒトの進化と未来・生物学のまとめ
1・2・3	生命とは・生命の誕生と変遷について																					
4・5・6	細胞をつくる物質・生命の単位：細胞																					
7・8・9	細胞のさまざまな活動・細胞の一生																					
10・11・12	ヒトの組織について・ヒトの器官																					
13・14・15	生殖・減数分裂・遺伝と遺伝子																					
16・17・18	遺伝子を働かせる仕組み・発生の過程																					
19・20・21	発生の仕組み・刺激の受容と反応																					
22・23・24	神経系・ホルモンと働き																					
25・26・27	生体防御・動物の行動																					
28・29・30	ヒトの進化と未来・生物学のまとめ																					
成績評価	学科試験																					
教 科 書 参考資料	生物学																					

分 野	基礎分野											
科 目 名	2. 生命倫理・医の倫理	【一般目標】 歯科医療における倫理の重要性を理解し、歯科衛生士の責任と義務に関する基本的な知識や態度、考え方を学ぶと共に、歯科衛生士に求められる職業人としての心構えやインフォームドコンセントに基づいた患者対応、医療現場で必要となるコミュニケーション技術や行動科学について学習する。										
单 位	1	【到達目標】 1. 医療倫理とは何かについて簡潔に述べることができる。 2. 医療従事者の職業倫理に関する規範について概説できる。 3. インフォームドコンセントの倫理的意義について述べることができる。 4. 歯科医療のQOLの向上について説明できる。										
時 間 数	15											
授業形態	講義	【授業計画】 <table border="1"><tr><td>1・2・3</td><td>医療倫理とは・歯科衛生士としての心構え</td></tr><tr><td>4・5・6</td><td>医療倫理をめぐる今日的課題・インフォームドコンセントの定義と重要性</td></tr><tr><td>7・8・9</td><td>QOLの定義と、患者・家族のQOL向上のために 患者の行動特性と医療従事者の行動特性</td></tr><tr><td>10・11・12</td><td>チーム医療の意義と多職種との連携・医療現場におけるコミュニケーション</td></tr><tr><td>13・14・15</td><td>医療現場におけるコミュニケーション・患者・家族が望む医療のあり方</td></tr></table>	1・2・3	医療倫理とは・歯科衛生士としての心構え	4・5・6	医療倫理をめぐる今日的課題・インフォームドコンセントの定義と重要性	7・8・9	QOLの定義と、患者・家族のQOL向上のために 患者の行動特性と医療従事者の行動特性	10・11・12	チーム医療の意義と多職種との連携・医療現場におけるコミュニケーション	13・14・15	医療現場におけるコミュニケーション・患者・家族が望む医療のあり方
1・2・3	医療倫理とは・歯科衛生士としての心構え											
4・5・6	医療倫理をめぐる今日的課題・インフォームドコンセントの定義と重要性											
7・8・9	QOLの定義と、患者・家族のQOL向上のために 患者の行動特性と医療従事者の行動特性											
10・11・12	チーム医療の意義と多職種との連携・医療現場におけるコミュニケーション											
13・14・15	医療現場におけるコミュニケーション・患者・家族が望む医療のあり方											
開講年度	2025年度											
時 期	後期											
担当講師 実務経験	中條信義 歯科医師・公認心理士としての実務経験あり											
成績評価	レポート・ワーク・授業態度 出席状況											
教 科 書 参考資料	歯科医療倫理											

分 野	基礎分野																					
科 目 名	3. 実践歯科英語																					
单 位	1																					
時 間 数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期																					
担当講師 実務経験	ポテズワ・ジェフリー・マーク 地域の英会話サークル、企業の英会話セミナー講師としての実務経験あり	<p>授業概要</p> <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>受付・誘導時の英会話（治療前の受付での会話、動作の指示）</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>患者への問診（既往歴・一般症状）</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>歯科保健指導の英会話・歯科用語（歯科疾患・歯科治療）</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>歯科用語（歯周疾患・顎関節症の問診・X線撮影の検査）</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>歯科治療の説明（治療後の注意事項）・歯科治療後の英会話（受付で会話）</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>英会話の演習（治療前の受付での会話）</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>英会話の演習（患者誘導）</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>英会話の演習（患者とのコミュニケーション）</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>英会話の演習（治療後の注意事項）</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>英会話の演習（治療後の受付での会話）</td> </tr> </table>	1・2・3	受付・誘導時の英会話（治療前の受付での会話、動作の指示）	4・5・6	患者への問診（既往歴・一般症状）	7・8・9	歯科保健指導の英会話・歯科用語（歯科疾患・歯科治療）	10・11・12	歯科用語（歯周疾患・顎関節症の問診・X線撮影の検査）	13・14・15	歯科治療の説明（治療後の注意事項）・歯科治療後の英会話（受付で会話）	16・17・18	英会話の演習（治療前の受付での会話）	19・20・21	英会話の演習（患者誘導）	22・23・24	英会話の演習（患者とのコミュニケーション）	25・26・27	英会話の演習（治療後の注意事項）	28・29・30	英会話の演習（治療後の受付での会話）
1・2・3	受付・誘導時の英会話（治療前の受付での会話、動作の指示）																					
4・5・6	患者への問診（既往歴・一般症状）																					
7・8・9	歯科保健指導の英会話・歯科用語（歯科疾患・歯科治療）																					
10・11・12	歯科用語（歯周疾患・顎関節症の問診・X線撮影の検査）																					
13・14・15	歯科治療の説明（治療後の注意事項）・歯科治療後の英会話（受付で会話）																					
16・17・18	英会話の演習（治療前の受付での会話）																					
19・20・21	英会話の演習（患者誘導）																					
22・23・24	英会話の演習（患者とのコミュニケーション）																					
25・26・27	英会話の演習（治療後の注意事項）																					
28・29・30	英会話の演習（治療後の受付での会話）																					
成績評価	科目終了時の学科試験 英会話での質疑応答試験																					
教 科 書 参考資料	毎回プリント配布																					

分 野	基礎分野																					
科 目 名	4. コンピュータスキル																					
单 位	1																					
時 間 数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	河野和宏 ワード、エクセル、パワーポイントエキスパートとして実務経験あり	<p>授業概要</p> <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>コンピュータの仕組み・コンピュータ操作の基礎知識</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>Webページの閲覧と検索・IE10/11の特徴と使用方法</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>文字入力と書式設定・表の作成</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>文書書式の設定・画像データの操作</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>表計算の基本操作・数式と関数、グラフの作成</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>プレゼンテーションの基本・パワーポイントの基本操作</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>効果的なプレゼンテーション</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>プレゼンテーションテクニック</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>テーマを設定し作品作成</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>発表</td> </tr> </table>	1・2・3	コンピュータの仕組み・コンピュータ操作の基礎知識	4・5・6	Webページの閲覧と検索・IE10/11の特徴と使用方法	7・8・9	文字入力と書式設定・表の作成	10・11・12	文書書式の設定・画像データの操作	13・14・15	表計算の基本操作・数式と関数、グラフの作成	16・17・18	プレゼンテーションの基本・パワーポイントの基本操作	19・20・21	効果的なプレゼンテーション	22・23・24	プレゼンテーションテクニック	25・26・27	テーマを設定し作品作成	28・29・30	発表
1・2・3	コンピュータの仕組み・コンピュータ操作の基礎知識																					
4・5・6	Webページの閲覧と検索・IE10/11の特徴と使用方法																					
7・8・9	文字入力と書式設定・表の作成																					
10・11・12	文書書式の設定・画像データの操作																					
13・14・15	表計算の基本操作・数式と関数、グラフの作成																					
16・17・18	プレゼンテーションの基本・パワーポイントの基本操作																					
19・20・21	効果的なプレゼンテーション																					
22・23・24	プレゼンテーションテクニック																					
25・26・27	テーマを設定し作品作成																					
28・29・30	発表																					
成績評価	試験 提出物																					
教 科 書 参考資料	パソコン、充電器、USB プリントを配布します																					

分 野	基礎分野	授業概要	【一般目標】 臨地実習現場で効率的に積極的に学ぶための事前学習、学んだことを振り返り、まとめ、発表することで学びを深め共有するための科目である。
科 目 名	5. プレゼンテーションⅠ (臨地実習)		【到達目標】 1. 実習の目的を理解する 2. 実習生として基本姿勢を身に付ける 3. 実習に向けて事前学習を行う 4. 実習の内容をレポートにまとめる 5. 学んだことをスライドにまとめ発表する
单 位	1		
時 間 数	30		
授業形態	演習		
開講年度	2025年度		
時 期	前期・後期		
担当講師 実務経験	下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験あり		【授業計画】 1・2・3 卒業研究発表会への参加、評価 4・5・6 実習施設の概要、事前学習 7・8・9 実習オリエンテーション 10・11・12 挨拶、態度、歩き方、見学の仕方・清潔、不潔、器具取扱い、感染予防 13・14・15 実習記録の書き方 16・17・18 実習のまとめ、振り返り 19・20・21 学んだ内容をスライドにまとめる 22・23・24 学んだ内容をスライドにまとめる 25・26・27 レポートプレゼンテーションへの参加、評価、発表 28・29・30 レポートプレゼンテーションへの参加、評価、発表
成績評価	提出物 発表		
教 科 書 参考資料	実習要項 臨床実習ハンドブック（学校図書） パソコン		

分 野	基礎分野	授業概要	【一般目標】 臨地実習の学びを充実させるために、臨地実習終了後に実習を振り返り、学修成果を報告する能力を高める科目である。主体性を持って学ぶことができる能力を修得する。
科 目 名	6. プレゼンテーションⅡ		
单 位	1		
時 間 数	30		
授業形態	演習		【到達目標】 1. 臨地実習で学んだことを振り返り、まとめることができる。 2. 臨地実習で学んだこと、経験したことをプレゼンテーションできる。 3. 他者が学んだ臨地実習の成果を共有できる。
開講年度	2025年度		
時 期	前期・後期		
担当講師 実務経験	船奥律子 歯科診療所で歯科衛生士としての実務経験あり		【授業計画】 1・2・3 臨地実習Ⅱで学んだことをプレゼンテーションする意義 4・5・6 3年生の卒業研究発表から各プレゼンテーションの方法を学ぶ 9/12 (金) 7・8・9 報告会の準備① 10・11・12 報告会の準備② 13・14・15 報告会の準備③ 16・17・18 報告会の準備④ 19・20・21 報告会の準備⑤ (リハーサル) 22・23・24 臨地実習Ⅱ-1・2報告会① 12/4 (木) 25・26・27 臨地実習Ⅱ-1・2報告会② 12/4 (木) 28・29・30 臨地実習Ⅱ-3 (徳島大学病院で学んだこと) 報告会 3/3 (火)
成績評価	卒業研究発表会レポート(20) プレゼンテーション(60) レポート(20)		
教 科 書 参考資料	歯科衛生学総論		

分 野	基礎分野	【一般目標】			
科 目 名	7. プレゼンテーションⅢ	これまでの歯科衛生士教育の中で学び、関心を持ったこと、発見したこと、探求したいと思ったことなどをテーマに研究をすすめ、明らかにしたいことを科学的かつ理論的に捉える思考を育てる科目である。			
单 位	1	【到達目標】			
時 間 数	60	1. 歯科衛生業務を行う上で、関心の分野を明確にできる。 2. 研究テーマに関する情報を収集できる。 3. 収集した情報を整理分析できる。 4. 研究論文が作成できる。 5. 研究論文を発表できる。			
授業形態	演習	【授業計画】			
開講年度	2025年度	1・2・3	オリエンテーション	31・32・	論文作成
時 期	前期・後期	4・5・6	研究テーマを設定	34・35・	論文作成
担当講師 実務経験	船奥律子	7・8・9	研究資料の収集・研究方法の選択	37・38・	論文作成
	増田洋子	10・11・12	研究計画を具体的に計画	40・41・	論文作成
	下谷陽子	13・14・15	データの集計	43・44・	論文作成
	歯科衛生士としての実務経験や学術大会で研究発表経験あり	16・17・18	データの集計	46・47・	リハーサル
成績評価	事前学習(20点)	19・20・21	データの集計	49・50・	卒業研究発表
	研究計画(40点)	22・23・24	データの資料化	52・53・	卒業研究発表
	研究内容・発表(40点)	25・26・27	データの資料化	55・56・	レポートプレゼンテーション発表
教 科 書 参考資料	プリントを配布します	28・29・30	データの資料化	58・59・	レポートプレゼンテーション発表

分 野	基礎分野	【一般目標】			
科 目 名	8. 人の行動と心理	医療従事者は、信頼と信用を獲得しなければ、いくら説明しても患者の口腔衛生と疾患の予防がきないことになる。また最近の人間関係の変化から予想もしないトラブルに巻き込まれたりもする。さらに職場での人間関係にも配慮することがじゅうようである。そこで臨床心理学をベースにした人間理解について学ぶ。			
单 位	1	【到達目標】			
時 間 数	15	1. 他者との良好なコミュニケーション形成する。 2. 臨床心理学や社会心理学を基礎して人間をより深く理解する。 3. 患者への接し方を学ぶ。			
授業形態	講義	【授業計画】			
開講年度	2025年度	1・2・3	社会心理学について・対人認知とステレオタイプ		
時 期	前期	4・5・6	原因帰属について・社会的推論について		
担当講師 実務経験	中條信義	7・8・9	認知と感情・態度とは		
	歯科医師・公認心理士としての実務経験あり	10・11・12	説得について・自己概念と自尊感情		
		13・14・15	対人関係・対人行動 試験		
成績評価	論述式筆記試験				
	プリントを配布します				
教 科 書 参考資料					

分 野	専門基礎分野		
科 目 名	9. 解剖・組織発生・生理		
单 位	2		
時 間 数	30		
授業形態	講義		
開講年度	2025年度		
時 期	前期		
担当講師 実務経験	守田 剛	授業概要	
成績評価	学科試験(70) 確認テスト(30)		
教 科 書 参考資料	解剖学・組織発生学・生理学		
【一般目標】			
人体の成り立ちを理解するために骨格系、筋系、内臓学、脈管系、神経系、感覚器の肉眼解剖的構造を学習し、人体の構造を系統別に理解する。人体の成り立ちを理解するために、組織・発生に関する基本的知識を習得する。医療従事者にとって知っておくべき基礎的な生体内のイベントについての系統的な理解を目的とする。			
【到達目標】			
1. 人体の構成、区分、方向用語を説明できる。 2. 骨格系、筋系、内臓学、脈管系、神経系、感覚器の構成、構造、機能が説明できる。 3. 細胞、組織、器官の相互関係から人体を理解する。 4. 人体の発生を理解する。 5. 細胞の構造と機能を説明できる。 6. 各器官の役割、仕組みを説明できる。			
【授業計画】			
1・2・3 解剖学で学ぶこと・骨格系 4・5・6 筋系・内臓学 7・8・9 内臓学 10・11・12 脈管系 13・14・15 神経学 16・17・18 感覚器・解剖学まとめ 19・20・21 生理学とは・組織 22・23・24 発生・細胞・血液循環 25・26・27 呼吸・筋・神経・感覚・消化吸收・排泄 28・29・30 体温・内分泌・生殖・まとめ			

分 野	専門基礎分野		
科 目 名	10. 人体の代謝と機能		
单 位	1		
時 間 数	15		
授業形態	講義		
開講年度	2025年度		
時 期	前期		
担当講師 実務経験	松原未奈 管理栄養士としての実務経験あり	授業概要	
成績評価	学科試験(100)		
教 科 書 参考資料	生化学・口腔生化学		
【一般目標】			
人体の生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、人体の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。			
【到達目標】			
1. 生体の構成要素と生体における化学反応を説明できる。 2. エネルギー代謝、物質の代謝を説明できる。 3. 生体における恒常性の維持を概説できる。			
【授業計画】			
1・2・3 生体の構成要素 4・5・6 生体における化学反応 7・8・9 糖質と脂質の代謝 10・11・12 糖質と脂質の代謝 13・14・15 タンパク質とアミノ酸の代謝・生体における恒常性の維持			

分 野	専門基礎分野																					
科 目 名	11. 栄養・食生活																					
単 位	2																					
時 間 数	30																					
授業形態	講義																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	戸田沙慧 管理栄養士としての実務経験あり	<p>【一般目標】 人間が生命を維持するために重要な栄養・食生活を理解するために、栄養と食生活に関する基本知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本人の栄養摂取状況が概説できる。 2. 各栄養素の消化・吸収が説明できる。 3. 各栄養素の働きが説明できる。 4. ライフステージの栄養と調理の特性が説明できる。 5. 望ましい食生活が概説できる。 <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>栄養の基礎</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>食事摂取基準</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>糖質・タンパク質の栄養的意味</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>脂質・ビタミンの栄養的意味</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>ビタミン・ミネラルの栄養的意味</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>ミネラル・水の栄養的意味</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>食物繊維の栄養的意味・国民の健康と栄養の現状</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>望ましい食生活</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>ライフステージ別の栄養と調理</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>食品の成分と分類・食べ物の物性</td> </tr> </table>	1・2・3	栄養の基礎	4・5・6	食事摂取基準	7・8・9	糖質・タンパク質の栄養的意味	10・11・12	脂質・ビタミンの栄養的意味	13・14・15	ビタミン・ミネラルの栄養的意味	16・17・18	ミネラル・水の栄養的意味	19・20・21	食物繊維の栄養的意味・国民の健康と栄養の現状	22・23・24	望ましい食生活	25・26・27	ライフステージ別の栄養と調理	28・29・30	食品の成分と分類・食べ物の物性
1・2・3	栄養の基礎																					
4・5・6	食事摂取基準																					
7・8・9	糖質・タンパク質の栄養的意味																					
10・11・12	脂質・ビタミンの栄養的意味																					
13・14・15	ビタミン・ミネラルの栄養的意味																					
16・17・18	ミネラル・水の栄養的意味																					
19・20・21	食物繊維の栄養的意味・国民の健康と栄養の現状																					
22・23・24	望ましい食生活																					
25・26・27	ライフステージ別の栄養と調理																					
28・29・30	食品の成分と分類・食べ物の物性																					
成績評価	学科試験 (100)																					
教 科 書 参考資料	栄養学																					

分 野	専門基礎分野		【一般目標】																																								
科 目 名	12. 歯・口腔の解剖・組織発生・生理（講義）		顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を修得する。また、歯科衛生士業務を行う上で、歯種別の形態と特徴を理解する。																																								
单 位	3		【到達目標】																																								
時 間 数	45		1. 頭頸部の基本的な構造と機能を説明できる。 2. 頸顎面口腔領域を中心とする骨格系や筋系、脈管系、神経系を学ぶ。 3. 歯の解剖学的名称を理解して説明できる。																																								
授業形態	演習																																										
開講年度	2025年度																																										
時 期	前期・後期																																										
担当講師	守田 剛																																										
実務経験																																											
成績評価	学科試験(80) 確認テスト(20)		【授業計画】																																								
教 科 書 参考資料	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学		<table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td><td>顔面と口腔の発生</td><td>31・32・</td><td>歯の形態</td></tr> <tr> <td>4・5・6</td><td>口腔付近の解剖学</td><td>34・35・</td><td>歯の形態</td></tr> <tr> <td>7・8・9</td><td>口腔付近の解剖学</td><td>37・38・</td><td>歯の形態</td></tr> <tr> <td>10・11・12</td><td>口腔付近の解剖学</td><td>40・41・</td><td>歯と歯周組織の発生</td></tr> <tr> <td>13・14・15</td><td>歯と口腔の感覚</td><td>43・44・</td><td>歯・口腔の構造と機能まとめ</td></tr> <tr> <td>16・17・18</td><td>味覚と嗅覚</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>19・20・21</td><td>咬合と咀嚼・吸啜</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>22・23・24</td><td>嚥下と嘔吐</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>25・26・27</td><td>発声</td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>28・29・30</td><td>唾液</td><td></td><td></td></tr> </table>	1・2・3	顔面と口腔の発生	31・32・	歯の形態	4・5・6	口腔付近の解剖学	34・35・	歯の形態	7・8・9	口腔付近の解剖学	37・38・	歯の形態	10・11・12	口腔付近の解剖学	40・41・	歯と歯周組織の発生	13・14・15	歯と口腔の感覚	43・44・	歯・口腔の構造と機能まとめ	16・17・18	味覚と嗅覚			19・20・21	咬合と咀嚼・吸啜			22・23・24	嚥下と嘔吐			25・26・27	発声			28・29・30	唾液		
1・2・3	顔面と口腔の発生	31・32・	歯の形態																																								
4・5・6	口腔付近の解剖学	34・35・	歯の形態																																								
7・8・9	口腔付近の解剖学	37・38・	歯の形態																																								
10・11・12	口腔付近の解剖学	40・41・	歯と歯周組織の発生																																								
13・14・15	歯と口腔の感覚	43・44・	歯・口腔の構造と機能まとめ																																								
16・17・18	味覚と嗅覚																																										
19・20・21	咬合と咀嚼・吸啜																																										
22・23・24	嚥下と嘔吐																																										
25・26・27	発声																																										
28・29・30	唾液																																										

分 野	専門基礎分野		【一般目標】																				
科 目 名	12. 歯・口腔の解剖・組織発生・生理（演習）		顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する基本的知識を修得する。また、歯科衛生士業務を行う上で、歯種別の形態と特徴を理解する。																				
单 位	1		【到達目標】																				
時 間 数	30		1. 頭頸部の基本的な構造と機能を説明できる。 2. 頸顎面口腔領域を中心とする骨格系や筋系、脈管系、神経系を学ぶ。 3. 歯牙のスケッチができる。 4. 歯牙のスケッチができる。 5. 歯の解剖学的名称を理解して説明できる。																				
授業形態	演習		【授業計画】																				
開講年度	2025年度																						
時 期	前期・後期																						
担当講師	谷脇竜弥（歯科医師） 船奥律子（歯科衛生士）																						
実務経験	下谷陽子（歯科衛生士） それぞれの職種での実務経験あり		<table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td><td>スケッチ（上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯）</td></tr> <tr> <td>4・5・6</td><td>上顎右側中切歯の歯型彫刻</td></tr> <tr> <td>7・8・9</td><td>上顎右側中切歯、上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻</td></tr> <tr> <td>10・11・12</td><td>上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻</td></tr> <tr> <td>13・14・15</td><td>筆記試験</td></tr> <tr> <td>16・17・18</td><td>全顎歯牙模型の配列（船奥）</td></tr> <tr> <td>19・20・21</td><td>口腔顎面解剖（船奥）</td></tr> <tr> <td>22・23・24</td><td>口腔顎面解剖（演習：口腔清掃困難者への口腔健康管理）（船奥）</td></tr> <tr> <td>25・26・27</td><td>解剖標本見学実習（下谷）</td></tr> <tr> <td>28・29・30</td><td>解剖標本見学実習レポート（下谷）</td></tr> </table>	1・2・3	スケッチ（上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯）	4・5・6	上顎右側中切歯の歯型彫刻	7・8・9	上顎右側中切歯、上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	10・11・12	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻	13・14・15	筆記試験	16・17・18	全顎歯牙模型の配列（船奥）	19・20・21	口腔顎面解剖（船奥）	22・23・24	口腔顎面解剖（演習：口腔清掃困難者への口腔健康管理）（船奥）	25・26・27	解剖標本見学実習（下谷）	28・29・30	解剖標本見学実習レポート（下谷）
1・2・3	スケッチ（上顎右側中切歯・上顎右側第一大臼歯）																						
4・5・6	上顎右側中切歯の歯型彫刻																						
7・8・9	上顎右側中切歯、上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻																						
10・11・12	上顎右側第一大臼歯の歯型彫刻																						
13・14・15	筆記試験																						
16・17・18	全顎歯牙模型の配列（船奥）																						
19・20・21	口腔顎面解剖（船奥）																						
22・23・24	口腔顎面解剖（演習：口腔清掃困難者への口腔健康管理）（船奥）																						
25・26・27	解剖標本見学実習（下谷）																						
28・29・30	解剖標本見学実習レポート（下谷）																						
成績評価	谷脇：提出物・筆記試験(50) 船奥：提出物(10),実技評価 (20) 下谷：提出物(20)																						
教 科 書 参考資料	口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学																						

分野	専門基礎分野											
科目名	13. 口腔の代謝と機能											
単位	1											
時間数	15											
授業形態	講義											
開講年度	2025年度											
時期	前期											
担当講師 実務経験	松原未奈 管理栄養士としての実務経験あり	<p>【一般目標】 口腔における生命現象を分子レベルの化学反応から理解するために、口腔における物質の代謝と機能に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 歯の無機成分、有機成分を説明できる 2. 歯の脱灰と再石灰化を説明できる 3. 唾液中の無機質と有機質の作用を説明できる 4. う蝕、歯周疾患におけるデンタルプラークの関わりを説明できる <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>歯と歯周組織の生化学（歯と歯周組織・結合組織）</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>歯の生化学・硬組織の生化学（血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組み）</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>硬組織の生化学（骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化）</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>唾液の生化学</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>プラークの生化学</td> </tr> </table>	1・2・3	歯と歯周組織の生化学（歯と歯周組織・結合組織）	4・5・6	歯の生化学・硬組織の生化学（血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組み）	7・8・9	硬組織の生化学（骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化）	10・11・12	唾液の生化学	13・14・15	プラークの生化学
1・2・3	歯と歯周組織の生化学（歯と歯周組織・結合組織）											
4・5・6	歯の生化学・硬組織の生化学（血清中のカルシウムとリン酸・石灰化の仕組み）											
7・8・9	硬組織の生化学（骨の生成と吸収・歯の脱灰と再石灰化）											
10・11・12	唾液の生化学											
13・14・15	プラークの生化学											
成績評価	学科試験(100)											
教科書 参考資料	栄養と代謝											

分野	専門基礎分野																					
科目名	14. 病理学																					
単位	2																					
時間数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時期	前期																					
担当講師 実務経験	永尾瑠佳 歯科医師としての実務経験あり	<p>【一般目標】 口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために、疾病の概念、病因と病態に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 一般病理学の基礎知識を理解する。 2. 全身における代表的な疾患の成り立ちやその病態を説明できる。 3. 口腔領域の疾患の成り立ちや詳細な病像を解説できる。 <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>病理学序論、病因・遺伝性疾患と奇形</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>循環障害・代謝障害と退行性病変</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>増殖と修復・炎症と免疫応答異常</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>腫瘍・歯の発育異常</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>歯の損傷と着色・付着物・う蝕</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>象牙質・歯髄複合体の病態・歯周組織の病変</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>歯周組織の病変・口腔粘膜の病変</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>口腔領域の囊胞と腫瘍・口腔癌</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>顎骨の病変・唾液腺の病変</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化</td> </tr> </table>	1・2・3	病理学序論、病因・遺伝性疾患と奇形	4・5・6	循環障害・代謝障害と退行性病変	7・8・9	増殖と修復・炎症と免疫応答異常	10・11・12	腫瘍・歯の発育異常	13・14・15	歯の損傷と着色・付着物・う蝕	16・17・18	象牙質・歯髄複合体の病態・歯周組織の病変	19・20・21	歯周組織の病変・口腔粘膜の病変	22・23・24	口腔領域の囊胞と腫瘍・口腔癌	25・26・27	顎骨の病変・唾液腺の病変	28・29・30	口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化
1・2・3	病理学序論、病因・遺伝性疾患と奇形																					
4・5・6	循環障害・代謝障害と退行性病変																					
7・8・9	増殖と修復・炎症と免疫応答異常																					
10・11・12	腫瘍・歯の発育異常																					
13・14・15	歯の損傷と着色・付着物・う蝕																					
16・17・18	象牙質・歯髄複合体の病態・歯周組織の病変																					
19・20・21	歯周組織の病変・口腔粘膜の病変																					
22・23・24	口腔領域の囊胞と腫瘍・口腔癌																					
25・26・27	顎骨の病変・唾液腺の病変																					
28・29・30	口腔領域の奇形・口腔組織の加齢変化																					
成績評価	学科試験(100)																					
教科書 参考資料	病理学・口腔病理学																					

分 野	専門基礎分野	【一般目標】		
科 目 名	15. 微生物学		口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために、微生物の基本的知識と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を修得する。	
单 位	2		【到達目標】	
時 間 数	30		1. 感染のメカニズムを概説できる. 2. 細菌について説明できる. 3. 免疫のメカニズムを説明できる. 4. 口腔微生物について説明できる. 5. 感染予防の説明ができる.	
授業形態	講義	授業概要	【授業計画】	
開講年度	2025年度		1・2・3 微生物学の概要、感染	
時 期	前期		4・5・6 微生物学総論、微生物の培養、観察と検査	
担当講師 実務経験	廣島佑香 歯科医師としての実務経験あり		7・8・9 化学療法、消毒と滅菌	
			10・11・12 編まとめ、口腔環境と常在微生物	
			13・14・15 バイオフィルムとしてのブラーク、う蝕の細菌学	
成績評価	学科試験(80) 提出物(20)		16・17・18 歯周病の細菌学、その他の口腔感染症	
			19・20・21 主な病原細菌	
			22・23・24 ウィルス、真菌、原虫、ブリオン	
教 科 書 参考資料	微生物学		25・26・27 免疫、細菌の形態観察（実習）	
			28・29・30 アレルギー、細菌の形態観察（実習）	

分 野	専門基礎分野	【一般目標】		
科 目 名	16. 薬理学		医科・歯科大学病院の研究者であり、麻酔科医として活躍する教員が、薬物作用の基本メカニズムに対する知識や薬物を安全かつ効果的に利用できるよう指導する科目である。	
单 位	2		【到達目標】	
時 間 数	30		1. 感染のメカニズムを概説できる. 2. 細菌について説明できる. 3. 免疫のメカニズムを説明できる. 4. 口腔微生物について説明できる. 5. 感染予防の説明ができる.	
授業形態	講義	授業概要	【授業計画】	
開講年度	2025年度		1・2・3 薬物の病変定義と分類	
時 期	前期		4・5・6 薬理作用・投与経路と体内動態	
担当講師 実務経験	藤原茂樹 歯科医師としての実務経験あり		7・8・9 薬物の連用・併用の効果・薬物の感受性	
			10・11・12 中枢神経に作用する薬物・鎮痛薬	
			13・14・15 自律神経に作用する薬物・運動神経に作用する薬物	
成績評価	学科試験(80) 確認テスト(20)		16・17・18 運動神経に作用する薬物・循環・呼吸器に作用する薬物	
			19・20・21 止血薬・抗炎症薬	
			22・23・24 抗菌薬・消毒薬	
教 科 書 参考資料	薬理学		25・26・27 歯内療法に用いる薬・う蝕予防に用いる薬	
			28・29・30 歯周疾患と薬・顎・口腔粘膜疾患と薬	

分 野	専門基礎分野		【一般目標】 歯・口腔の健康に関わる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯・口腔の健康と予防に関する基本的知識を修得する。
科 目 名	17. 口腔衛生学		
单 位	2		
時 間 数	30		
授業形態	講義		
開講年度	2025年度		
時 期	前期・後期		
担当講師 実務経験	本那智昭 歯科医師としての実務経験あり	授業概要	【到達目標】 1. 保健生態学の概念を理解する。 2. 歯・口腔の構造を理解する。 3. う蝕、歯周疾患の予防について理解する。 4. 口腔と全身疾患との関連について説明できる。 【授業計画】 1・2・3 保健生態学とは・予防医学の概念 4・5・6 痘学総論・痘学の方法 7・8・9 環境の概念・健康への影響 10・11・12 食品保健・栄養と健康 13・14・15 歯口腔の健康・歯口腔の構造 16・17・18 歯口腔の構造・歯口腔の付着物沈着物 19・20・21 口腔清掃の意義・口腔清掃の方法 22・23・24 う蝕発生のメカニズム・う蝕の予防法 25・26・27 フッ化物応用・フッ素の代謝、毒性 28・29・30 歯周疾患の分類・歯周疾患の予防法
成績評価	学科試験(70) 確認テスト(30)		
教 科 書 参考資料	保健生態学 保健情報統計学		

分 野	専門基礎分野		【一般目標】 生活と健康に関わる社会の仕組みを理解し、地域社会における保健対策の基本的な考え方を学び、地域集団に対する疾病的予防能力を高める態度を養うために、健康に関わる地域の役割に関する基本的知識を習得する。
科 目 名	18. 地域保健学		
单 位	1		
時 間 数	15		
授業形態	講義		
開講年度	2025年度		
時 期	前期・後期		
担当講師 実務経験	吉田有里 歯科医師としての実務経験あり	授業概要	【到達目標】 1. 地域保健の概念を理解する。 2. 各ライフステージごとの保健活動を理解する。 3. 地域保健の関連法規についての理解を深める。 【授業計画】 1・2・3 地域保健・公衆衛生の基本理念 4・5・6 母子保健、学校保健 7・8・9 成人保健、産業保健 10・11・12 高齢者保健、精神保健 13・14・15 災害時の歯科保健・国際保健
成績評価	学科試験(100)		
教 科 書 参考資料	保健生態学 保健情報統計学		

分 野	専門基礎分野											
科 目 名	19. 衛生学・公衆衛生学											
单 位	2											
時 間 数	15											
授業形態	講義											
開講年度	2025年度											
時 期	前期											
担当講師 実務経験	廣島佑香 歯科医師、研究者としての実務 経験あり	<p>【授業概要】</p> <p>1. 健康と予防医学の概念を理解できる。 2. 人間をとりまく健康を左右する環境について理解できる。 3. 感染症の概念を理解できる。 4. 食品の安全性や食生活の現状について理解できる。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>総論・疫学・人口・健康と環境</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>人口</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>健康と環境</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>感染症</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>食品と健康</td> </tr> </table>	1・2・3	総論・疫学・人口・健康と環境	4・5・6	人口	7・8・9	健康と環境	10・11・12	感染症	13・14・15	食品と健康
1・2・3	総論・疫学・人口・健康と環境											
4・5・6	人口											
7・8・9	健康と環境											
10・11・12	感染症											
13・14・15	食品と健康											
成績評価	学科試験(100)											
教 科 書 参考資料	保健生態学											

分 野	専門基礎分野																					
科 目 名	20. 統計活用法																					
单 位	1																					
時 間 数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期																					
担当講師 実務経験	本那智昭 歯科医師として実務経験あり	<p>【授業概要】</p> <p>現代社会のニーズに合った保健情報の取り扱いができるようになるために、関連する情報を把握し、衛生統計の手法を修得する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>1. それぞれに応じた保健情報の収集方法を選択できる。 2. データの数値のもつ特徴を説明できる。 3. それぞれに応じたデータの処理・解析方法を選択できる。 4. コンピュータを用いた基本的な統計処理ができる。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>保健情報と保健統計</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>保健情報と疫学</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>実際の統計の処理（データ入力）</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>実際の統計の処理（データの処理方法について）</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>実際の統計の処理（データ処理練習）</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>実際の統計の処理（データ処理練習）</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>歯科疾患の指数</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>歯科疾患の指数</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>各統計の利用方法</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>保健統計の実際</td> </tr> </table>	1・2・3	保健情報と保健統計	4・5・6	保健情報と疫学	7・8・9	実際の統計の処理（データ入力）	10・11・12	実際の統計の処理（データの処理方法について）	13・14・15	実際の統計の処理（データ処理練習）	16・17・18	実際の統計の処理（データ処理練習）	19・20・21	歯科疾患の指数	22・23・24	歯科疾患の指数	25・26・27	各統計の利用方法	28・29・30	保健統計の実際
1・2・3	保健情報と保健統計																					
4・5・6	保健情報と疫学																					
7・8・9	実際の統計の処理（データ入力）																					
10・11・12	実際の統計の処理（データの処理方法について）																					
13・14・15	実際の統計の処理（データ処理練習）																					
16・17・18	実際の統計の処理（データ処理練習）																					
19・20・21	歯科疾患の指数																					
22・23・24	歯科疾患の指数																					
25・26・27	各統計の利用方法																					
28・29・30	保健統計の実際																					
成績評価	レポート(30) 学科試験(70)																					
教 科 書 参考資料	保健情報統計学 パソコン																					

分 野	専門基礎分野	
科 目 名	21. 歯科衛生士と法律・制度	
単 位	1	
時 間 数	30	
授業形態	講義	
開講年度	2025年度	
時 期	前期・後期	
担当講師	北詰典子	授業概要
実務経験	歯科衛生士・社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験あり	
成績評価	学科試験(100)	
教 科 書 参考資料	保健・医療・福祉の制度	

【一般目標】

日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生士に必要な法律・制度に関する基本的知識を修得する。

【到達目標】

1. 日本の衛生行政と社会保障の体系を説明できる。
2. 歯科衛生士の業務と法令および法令遵守について説明できる。
3. 歯科衛生士として職場で知らなければならない教養としての社会福祉・社会保険の知識を説明できる。
4. 医療・福祉の職種との関連について説明できる。

【授業計画】

1・2・3	歯科衛生士法の成り立ち、目的、定義と業務
4・5・6	免許・歯科衛生士名簿、登録・免許証の交付及び届出、相対的欠格事項
7・8・9	歯科衛生士業務・身分・責任等についての法律
10・11・12	歯科医療従事者の現況・医療法の成り立ちと目的
13・14・15	歯科医療とかかわる医療関係者・各職種にかかる法律
16・17・18	薬事に関連する法規・地域保健に関連する法規、その他の衛生法規
19・20・21	社会保障制度と医療保険・介護保険
22・23・24	社会福祉行政・社会福祉制度
25・26・27	国民の健康状態と受療状況・国民医療費の動向
28・29・30	全体的な振り返り

分 野	専門基礎分野	【一般目標】	
科 目 名	22. 歯科衛生学総論	歯科衛生業務を実践して人びとの健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度および論理的思考法の基礎を修得する。	
单 位	2	【到達目標】	
時 間 数	30	1. 歯科衛生学の定義を述べることができる 2. 歯科衛生士の誕生について概要を説明できる 3. 保健行動の理論を説明できる 4. 歯科衛生過程のプロセス、構成要素を列挙できる 5. 歯科衛生士法に基づく歯科衛生業務が列挙できる 6. 安全管理の必要性を説明できる 7. 医の倫理について概説できる 8. 歯科衛生士の活動領域と就業の推移を説明できる 9. 海外の歯科衛生士の活動が説明できる 10. 災害被災者への口腔健康管理ができる	
授業形態	講義		
開講年度	2025年度		
時 期	前期		
担当講師	船奥律子 河野美枝子	授業概要	歯科衛生士としての実務経験あり
実務経験			1・2・3 歯科衛生学とは
			4・5・6 歯科衛生士の歴史
			7・8・9 歯科衛生活動のための理論
			10・11・12 歯科衛生過程・ミニワーク ★ワークシート提出
成績評価	学科試験(70) レポート(30)ワークも含む		13・14・15 歯科衛生士法と歯科衛生業務
			16・17・18 歯科衛生士法と歯科衛生業務（安全管理）
			19・20・21 歯科衛生士と医療倫理
			22・23・24 歯科衛生士と医療倫理 ★グループワーク、ワークシート提出
教 科 書 参考資料	歯科衛生学総論		25・26・27 歯科衛生士の活動と組織・日本歯科衛生士会 ★レポート提出
			28・29・30 海外における歯科衛生士・災害時の歯科衛生活動・まとめ

分 野	専門分野	【一般目標】	
科 目 名	23. 歯科衛生過程	対象者の抱える問題点を解決するために、原因を明らかにし、歯科衛生過程を用いて統括的に計画実施する歯科衛生業務の臨床応用を学ぶ。	
单 位	1	【到達目標】	
時 間 数	30	(1) 歯科衛生過程の基本的な考え方を説明できる。 (2) 対象者の問題や原因を把握するための情報収集、情報の処理ができる。 (3) 歯科衛生診断により対象者の抱える問題を明確化できる。 (4) 問題の解決方法が計画できる。 (5) 対象者の問題解決のための歯科衛生介入ができる。 (6) 問題の解決の過程と結果を判断、評価できる。	
授業形態	演習	【授業計画】	
開講年度	2025年度	授業概要	1・2・3 歯科衛生過程の基礎知識
時 期	後期		4・5・6 歯科衛生過程の展開（事例）
担当講師	船奥律子		7・8・9 カリエスリスク検査結果の分析
実務経験	歯科衛生士・社会福祉士としての実務経験あり		10・11・12 1年生への歯科衛生過程開始前の情報収集
成績評価	歯科衛生過程演習評価 事例検討		13・14・15 1年生への歯科衛生過程（第1回）「アセスメント」「診断」「計画」 16・17・18 「アセスメント」「診断」「計画」「記録」 19・20・21 1年生への歯科衛生過程（第2回）「計画」「介入」
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論 よくわかる歯科衛生過程		22・23・24 1年生への歯科衛生過程（第3回）「介入」「評価」 25・26・27 1年生への歯科衛生過程「記録」まとめ 28・29・30 演習の振り返り「事例検討」

分 野	専門分野	【一般目標】		
科 目 名	24. 臨床歯科総論	臨床における歯科診療の概要と流れを理解する。また、歯科衛生業務を行うために必要な放射線の基本的知識と撮影時の歯科診療補助順、画像の管理および基本的な読影法を修得する。		
単 位	1	【到達目標】		
時 間 数	30	1. 歯科医療の内容を説明できる。 2. 歯科診療の流れの概要を説明できる。 3. 歯の正常と異常を説明できる。 4. 各分野の治療の特徴を説明できる。 5. 放射線の生物学的影響を理解し、放射線防御を概説できる。 6. 口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。 7. う蝕と歯周病および顎骨に生じる病変のエックス線所見を概説できる。		
授業形態	演習	【授業計画】		
開講年度	2025年度	1・2・3	歯科医学・歯科診療所と歯科診療	6・17・1 放射線とその防御
時 期	前期・後期	4・5・6	歯科疾患	9・20・2 歯・口腔顎面領域の撮影補助
担当講師	藤中恵子 水頭英樹 歯科医師としての実務経験あり	7・8・9	歯科保存治療・歯周治療の概要	2・23・2 フィルムの現像と管理
実務経験		10・11・12	歯科補綴・小児歯科治療の概要	5・26・2 放射線腫瘍学
成績評価	学科試験(100)	13・14・15	矯正歯科・口腔外科治療の概要	8・29・3 撮影時の歯科診療補助
教 科 書	歯科衛生士のための歯科臨床概論 歯科放射線			
参考資料				

分 野	専門分野	【一般目標】		
科 目 名	25. 保存修復学・歯内療法学	大学病院で専門性の高い歯科保存の臨床経験のある歯科医師が、歯髓疾患、根尖性歯周組織疾患の病因と病態および治療法を指導する科目である		
単 位	1	【到達目標】		
時 間 数	30	1. う蝕について説明できる 2. 窩洞の分類を説明できる 3. 直接修復法の種類や特徴を説明できる 4. 関節修復法の種類や特徴を説明できる 5. 歯髓疾患、根尖性歯周組織疾患を説明できる 6. 歯内療法における偶発症を説明できる 7. 保存療法、除去療法、根管治療を説明できる 8. 根管充填について説明できる 9. 歯の外傷と処置を概説できる		
授業形態	演習	【授業計画】		
開講年度	2025年度	1・2・3	歯の保存療法の違い・口腔診査・保存修復の概要	
時 期	前期・後期	4・5・6	保存修復の概要	
担当講師	井内智貴 秋月皆人 歯科医師としての実務経験あり	7・8・9	直接法修復	
実務経験		10・11・12	間接法修復	
成績評価	学科試験(100)	13・14・15	間接法修復・まとめ	
		16・17・18	歯内療法の概要	
		19・20・21	歯内療法における歯科衛生士の役割・歯髓保存療法	
教 科 書	保存修復・歯内療法	22・23・24	歯髓の除去療法	
参考資料		25・26・27	根管治療・根管充填・歯の外傷	
		28・29・30	外科的歯内療法・歯内療法における安全対策・まとめ	

分 野	専門分野	
科 目 名	26. 歯周治療学	【一般目標】 歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、症状、診断法および治療法を理解する。
单 位	1	【到達目標】 1. 歯周組織の構造・機能を説明できる。 2. 歯周疾患の診査方法を説明できる。 3. 歯周疾患の分類と原因・病態を説明できる。 4. 歯周疾患の処置の方法と目的を説明できる。 5. 歯周治療における歯科衛生士の役割を説明できる。
時 間 数	30	【授業計画】 1・2・3 歯周治療の概要と臨床での展開（桐野） 4・5・6 正常な歯周組織の構造と機能 7・8・9 歯周病の分類と原因 10・11・12 歯周治療の進め方 13・14・15 歯周病の検査 16・17・18 歯周基本治療 19・20・21 歯周外科治療 22・23・24 歯周治療としての口腔機能回復治療 25・26・27 メインテナンス（下谷） 28・29・30 歯周治療における歯科衛生士の役割（下谷）
授 業 概 要		
担 当 講 師	桐野晃教（歯科医師） 板東美香（歯科医師）	
実 務 経 験	下谷陽子（歯科衛生士） それぞれの職種で実務経験あり	
成 績 評 価	学科試験 提出物	
教 科 書 参 考 資 料	歯周病学	

分 野	専門分野	
科 目 名	27. 歯科補綴学	【一般目標】 歯を失った患者の気持ちに寄り添い、適切な歯科衛生業務を行うために、歯と口腔、顎の機能の大切さを認識し、補綴処置の診査・診断・治療・ケアについての知識を修得する。
单 位	1	【到達目標】 1. 歯科補綴について説明できる。 2. 歯の欠損による変化・障害について説明できる。 3. 補綴物の名称を列挙できる。 4. 補綴物の特徴を説明できる。 5. 補綴治療と高齢者歯科とのかかわりを説明できる。
時 間 数	30	【授業計画】 1・2・3 歯科補綴の概要／補綴歯科治療の意義と目的／歯科衛生士の役割 4・5・6 補綴歯科治療の基礎知識／歯列と咬合／口腔の機能 7・8・9 補綴歯科治療における検査／医療面接と診察 10・11・12 クラウン・ブリッジ治療／クラウン・ブリッジ治療の概要と診療の補助 13・14・15 有床義歯治療／全部床義歯治療の概要と診療補助 16・17・18 有床義歯治療／部分床義歯治療の概要と診療補助 19・20・21 部分床義歯治療の流れと診療補助／インプラント治療の概要 22・23・24 インプラント治療／インプラント治療の流れと診療補助 25・26・27 特殊な口腔内装置を用いる治療 28・29・30 補綴歯科治療における器材の管理
授 業 概 要		
担 当 講 師	市川 哲雄 後藤 崇晴	
実 務 経 験	田上 義弘 歯科医師としての実務経験あり	
成 績 評 価	学科試験(100) 後藤(学科試験45点,小テスト5点) 田上(学科試験50点)	
教 科 書 参 考 資 料	歯科補綴学(医歯薬出版) 高齢者歯科(医歯薬出版)	

分 野	専門分野	
科 目 名	28. 口腔外科学 歯科麻酔学	
单 位	1	
時 間 数	30	
授業形態	演習	
開講年度	2025年度	
時 期	前期・後期	
担当講師	藤原茂樹 浪花耕平 可児耕一 福場真美	
実務経験	歯科医師としての実務経験あり	
成績評価	学科試験(100) ※歯科麻酔学(30) 口腔外科学(70)	
教 科 書 参考資料	口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版）	
授業概要		
【一般目標】 ・歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する。 ・歯科衛生業務を行うために必要な全身管理、局所麻酔、精神鎮静法および全身麻酔を理解する。 ・歯科衛生業務を行うために必要な顎・口腔領域に生じる各種疾患の特徴と症状、診断法および治療法を理解する。		
【到達目標】 1. 麻酔の目的を説明できる。 2. 歯科局所麻酔や精神鎮静法、全身麻酔について説明できる。 3. 救命救急処置について説明できる。 4. 口腔外科疾患の特徴を説明できる。 5. 手術介助に必要な器具を準備できる。 6. 外科手術に必要な消毒と滅菌について説明できる。 7. 手術の術式を理解し、適切な介助を行うことができるようになる。		
【授業計画】 「歯科麻酔学」第1回～9回、「口腔外科学」第10回～30回		
1・2・3 安全な歯科治療のために／全身状態の評価と患者管理／治療中の合併症		
4・5・6 局所麻酔・局所麻酔時の合併症／精神鎮静法		
7・8・9 全身麻酔／救急蘇生		
10・11・12 口腔外科の概要／口腔領域の先天疾患、口腔領域の損傷		
13・14・15 腔外科診療における診察と診断／口腔外科手術の準備／口腔粘膜疾患		
16・17・18 口腔領域の炎症、顎関節疾患		
19・20・21 抜歯術／口腔領域の囊胞、腫瘍		
22・23・24 唾液腺疾患／口腔外科小手術		
25・26・27 口腔外科小手術、口腔内出血に対する対処法／口腔領域の神経疾患等		
28・29・30 口腔外科小手術／インプラント手術の介助の実際		

分 野	専門分野	
科 目 名	29. 小児歯科学	
单 位	1	
時 間 数	30	
授業形態	演習	
開講年度	2025年度	
時 期	後期	
担当講師	長谷川智一	
実務経験	歯科医師としての実務経験あり	
成績評価	学科試験(100)	
教 科 書 参考資料	小児歯科（医歯薬出版）	
授業概要		
【一般目標】 歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。		
【到達目標】 1. 小児の発達・発育の特徴を説明できる。 2. 小児の口腔の特徴を説明できる。 3. 小児う蝕の特徴、う蝕予防および進行抑制法を説明できる。 4. 小児の歯科診療補助時の注意点を説明できる。		
【授業計画】		
1・2・3 小児歯科概論／小児発育の特徴		
4・5・6 顔面・頭蓋の発育／歯の発育とその異常		
7・8・9 歯列・咬合の発育と異常／小児の歯科疾患		
10・11・12 小児の歯科疾患／小児の口腔軟組織		
13・14・15 小児期の特徴と歯科的問題点／小児歯科における診療体系		
16・17・18 小児歯科における麻酔法・小児の歯冠修復／歯内療法・小児の外科的処置		
19・20・21 小児の外傷の特徴・処置・予防法／咬合誘導・口腔習癖と歯科的問題点		
22・23・24 小児歯科における歯科衛生士の役割・年齢別に見た小児行動と対応法		
25・26・27 主な障害の全身的・歯科的特徴・障害児への対応法		
28・29・30 診療補助と歯科衛生士・小児の口腔保健管理／歯科診療室と器材の管理		

分 野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	30. 障害者歯科学		歯科衛生業務を行うために必要な障害者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。
単 位	1		【到達目標】
時 間 数	30		1. 障害者の現況について説明できる。 2. 障害の種類や特性、歯科的特徴を説明できる。 3. 障害者の口腔保健指導に必要な知識を修得する。 4. 障害に配慮した診療補助ができる。
授業形態	演習		【授業計画】
開講年度	2025年度		1・2・3 障害の概念
時 期	後期		4・5・6 歯科医療で特別な支援が必要な疾患①
担当講師 実務経験	山川允仁 歯科医師としての実務経験あり		7・8・9 歯科医療で特別な支援が必要な疾患②
成績評価	学科試験(100)		10・11・12 障害者の歯科医療と行動調整①
教 科 書 参考資料	障害者歯科学 (医歯薬出版)		13・14・15 障害者の歯科医療と行動調整②
			16・17・18 健康支援と口腔衛生管理
			19・20・21 リスク評価と安全管理
			22・23・24 摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割①
			25・26・27 摂食・嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割②
			28・29・30 地域における障害者歯科

分 野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	31. 歯科矯正学		歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する。
単 位	1		【到達目標】
時 間 数	30		1. 顎顔面領域の成長・発達・歯列や咬合の発育を説明できる。 2. 正常咬合、不正咬合について説明できる。 3. 予防、検査、診断、治療方法を説明できる。 4. 歯科矯正の分野における歯科衛生士の役割を説明できる。
授業形態	演習		【授業計画】
開講年度	2025年度		1・2・3 矯正歯科治療の概要／成長・発育
時 期	後期		4・5・6 正常咬合・不正咬合／不正咬合の分類・原因・予防
担当講師 実務経験	田中茉里子 歯科医師としての実務経験あり		7・8・9 矯正歯科治療における診断／検査と症例分析、抜歯と非抜歯治療
成績評価	学科試験(75) 確認テスト(25)		10・11・12 歯の移動と固定・組織反応・歯の移動様式／矯正力と顎整形力・保定
教 科 書 参考資料	歯科矯正学 (医歯薬出版)		13・14・15 矯正装置
			16・17・18 上下顎の不調和・成人矯正／口腔顎顔面の形成異常等
			19・20・21 矯正歯科治療時のトラブルへの対応・健康保険が適用される矯正歯科治療
			22・23・24 矯正歯科診療時の業務
			25・26・27 口腔筋機能療法／器材、資料、文書の管理
			28・29・30 まとめ

分野	専門分野	【一般目標】
科目名	32. 高齢者歯科学	高齢者に寄り添うことができる歯科衛生士になるために、高齢者を取り巻く環境や心身機能の変化を理解する。
単位	1	【到達目標】
時間数	30	1. 高齢者の特性を理解できる。 2. 要介護高齢者に必要な口腔ケアの重要性を理解できる。 3. 高齢者に多い疾患の特性と薬剤について理解できる。 4. 高齢者を支える法制度について理解できる。
授業形態	演習	
開講年度	2025年度	
時期	前期	
担当講師	青田桂子 福場真美	【授業計画】
実務経験	芳地浩彰 歯科医師としての実務経験あり	1・2・3 高齢者をとりまく社会と環境 4・5・6 加齢による身体的・精神的変化と疾患 7・8・9 高齢者の状態の把握①高齢者の生活機能評価、高齢者歯科と臨床検査 10・11・12 高齢者の状態の把握②高齢者の栄養状態・薬剤服用 13・14・15 高齢者に対する口腔ケア、有病高齢者への口腔ケア 16・17・18 要介護高齢者への口腔ケア 19・20・21 高齢者のリハビリテーションの概要、摂食嚥下の評価と対応 22・23・24 誤嚥性肺炎の予防、在宅訪問歯科診療における摂食嚥下リハビリテーション 25・26・27 在宅訪問診療の概要、歯科衛生士が関わる公的介護保険の概要 28・29・30 かかりつけ歯科の役割、訪問看護と歯科の役割
成績評価	学科試験(100)	
教科書 参考資料	高齢者歯科学	

分野	専門分野	【一般目標】
科目名	33. 全身管理と周術期の口腔健康管理	周術期の口腔機能管理のチーム医療の中で、歯科衛生士としての役割を果たすために、全身疾患の把握および感染防御、栄養サポートの取り組みを学ぶ。
単位	1	【到達目標】
時間数	30	1. 周術期の口腔機能管理について説明できる。 2. 周術期の口腔機能管理について説明できる。 3. 周術期の病態とその治療法を説明できる。 4. 術後に口腔機能障害が伴った場合の口腔リハビリテーションの必要性を説明できる。 5. 周術期等に歯科衛生士が行う専門的口腔衛生処置の説明ができる。 6. 周術期等に歯科衛生士が行う専門的口腔衛生処置ができる。
授業形態	講義	【授業計画】
開講年度	2025年度	
時期	前期・後期	
担当講師	山口明大 青田桂子（歯科医師） 多田悦尚（言語聴覚士） 石川久子（歯科衛生士）	1・2・3 当事者の体験（骨髄移植） (山口明大) 4・5・6 周術期等口腔機能管理の概要 (青田桂子) 7・8・9 周術期等口腔機能管理(I)(II)(III) (青田桂子) 10・11・12 摂食・嚥下のメカニズムと障害の原因 (多田悦尚) 13・14・15 摂食・嚥下のメカニズムと障害の原因 (多田悦尚) 16・17・18 摂食・嚥下障害の検査・評価 (多田悦尚) 19・20・21 摂食・嚥下障害のリハビリテーションと摂食機能療法 (多田悦尚) 22・23・24 リハビリテーションの実際（実技・症例） (多田悦尚) 25・26・27 チーム医療・連携医療で行う周術期口腔機能管理 (石川久子) 28・29・30 病態の把握（化学療法・放射線治療・気管内挿管）専門的口腔衛生処置 (石川)
成績評価	学科試験 (青田25点・多田50点・石川24点)	
教科書 参考資料	口腔外科・歯科麻酔、高齢者歯科（青田） 歯科診療補助論（青田） プリントを配布します（多田・石川・山口）	

分野	専門分野	
科目名	34. 歯科予防処置論 I (講義)	
単位	1	
時間数	15	
授業形態	講義	
開講年度	2025年度	
時期	前期	
担当講師 実務経験	下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験あり	授業概要
成績評価	学科試験 (100)	
教科書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論	

分野	専門分野	
科目名	34. 歯科予防処置論 I (演習)	
単位	1	
時間数	60	
授業形態	演習	
開講年度	2025年度	
時期	前期・後期	
担当講師 実務経験	下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験あり	授業概要
成績評価	実技試験(30点) 項目ごとの実技評価(40点) 小テスト(15点) 提出物、身だしなみ等の評価(15点)	
教科書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論	

分野	専門分野		【一般目標】 歯科臨床での歯周疾患の予防やう蝕予防処置ができる歯科衛生士になるための知識を修得する。
科目名	35. 歯科予防処置論Ⅱ (講義)		
単位	1		
時間数	15		
授業形態	講義		【到達目標】 1. 臨床で行われる歯科疾患の予防に対する歯科衛生士の役割りが説明できる。 2. 口腔内診査の検査項目・方法を説明できる。 3. 予防的歯石除去、歯面研磨、歯面清掃器、PMTC,PTC意義手順が説明できる。 4. 小窓裂溝填塞の材料の種類とその適応が説明できる。
開講年度	2025年度		
時期	前期		
担当講師 実務経験	下谷 陽子 歯科衛生士としての実務経験あり	授業概要	【授業計画】 1・2・3 口腔の器質的問題の把握 4・5・6 口腔の機能的問題の把握 7・8・9 分析のためのデータ 10・11・12 歯科衛生介入としての歯科予防処置① 13・14・15 歯科衛生介入としての歯科予防処置②
成績評価	学科試験(100)		
教科書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分野	専門分野		【一般目標】 歯科臨床での歯周疾患やう蝕予防処置ができる歯科衛生士になるために、知識や技術を修得する。
科目名	35. 歯科予防処置論Ⅱ (演習)		
単位	2		
時間数	60		
授業形態	講義		【到達目標】 1. 口腔内診査の検査項目や方法を理解し、実施できる。 2. 予防的歯石除去、歯面研磨、歯面清掃を実施できる。 3. 各種フッ化物の特徴を理解し、臨床への応用ができる。 4. 小窓裂溝填塞の材料の種類に応じた填塞ができる。
開講年度	2025年度		
時期	前期・後期		
担当講師 実務経験	下谷 陽子 歯科衛生士としての実務経験あり	授業概要	【授業計画】★白衣着用の場合は前日までに伝えます。 1・2・3 パワースケーラー① 31・32・ 齒面清掃、歯面研磨③ 4・5・6 パワースケーラー② 34・35・ 口腔内診査① 7・8・9 パワースケーラー③ 37・38・ 口腔内診査② 10・11・12 パワースケーラー④ 40・41・ 口腔内診査③ 13・14・15 フッ化物応用① 43・44・ 小窓裂溝填塞法① 16・17・18 フッ化物応用② 46・47・ PTC① 19・20・21 フッ化物応用③ 49・50・ PTC② 22・23・24 フッ化物応用④ 52・53・ PTC③ 25・26・27 齒面清掃、歯面研磨① 55・56・ PTC④ 28・29・30 齒面清掃、歯面研磨② 58・59・まとめ
成績評価	実技試験(30点) 項目ごとの実技評価(40点) 小テスト(15点) 提出物、身だしなみ等の評価(15点)		
教科書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分 野	専門分野											
科 目 名	36. 歯科予防処置論Ⅲ (講義)											
单 位	1											
時 間 数	15											
授業形態	演習											
開講年度	2025年度											
時 期	後期											
担当講師 実務経験	下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験あり	<p>【授業概要】</p> <p>歯科予防処置についての専門知識、および態度を修得し、卒業後の臨床応用に発展することができるよう3年間の知識をまとめる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> う蝕活動性試験の目的と種類を説明できる。 歯周病に関連する指標を説明できる。 歯面研磨、歯面清掃の意義を説明できる。 フッ化物応用の使用薬剤の種類と濃度、およびその取扱い法を説明できる。 小窩裂溝填塞材の種類と特徴、適応歯、実施上の注意点を説明できる。 <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>歯科衛生予防処置のまとめ①（総論、歯周病予防処置①）</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>歯科衛生予防処置のまとめ②（歯周病予防処置②）</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>歯科衛生予防処置のまとめ③（歯周病予防処置③）</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>歯科衛生予防処置のまとめ④（う蝕予防処置①）</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>歯科衛生予防処置のまとめ⑤（う蝕予防処置②）</td> </tr> </table>	1・2・3	歯科衛生予防処置のまとめ①（総論、歯周病予防処置①）	4・5・6	歯科衛生予防処置のまとめ②（歯周病予防処置②）	7・8・9	歯科衛生予防処置のまとめ③（歯周病予防処置③）	10・11・12	歯科衛生予防処置のまとめ④（う蝕予防処置①）	13・14・15	歯科衛生予防処置のまとめ⑤（う蝕予防処置②）
1・2・3	歯科衛生予防処置のまとめ①（総論、歯周病予防処置①）											
4・5・6	歯科衛生予防処置のまとめ②（歯周病予防処置②）											
7・8・9	歯科衛生予防処置のまとめ③（歯周病予防処置③）											
10・11・12	歯科衛生予防処置のまとめ④（う蝕予防処置①）											
13・14・15	歯科衛生予防処置のまとめ⑤（う蝕予防処置②）											
成績評価	1) 学科試験 (100点)											
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論											

分 野	専門分野																					
科 目 名	36. 歯科予防処置論Ⅲ (演習)																					
单 位	1																					
時 間 数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	川原博雄（3回） 歯科医師としての実務経験あり 下谷陽子（7回） 歯科衛生士としての実務経験あり	<p>【授業概要】</p> <p>歯科予防処置についての専門知識、技術および態度を修得し、卒業後の臨床応用に発展することができるよう3年間の知識、技術をまとめる。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 定期的に継続して行う口腔保健管理の意義を説明できる。 口腔健康状態を維持するための歯科衛生士の役割が概説できる。 対象者が必要とする健康支援を述べることができる。 臨床で行う歯科予防処置法の知識が修得できている。 臨床で行う歯科予防処置法の技術が修得できている。 <p>【授業計画】★白衣着用</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>歯科医療の価値（川原）</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>カリオロジー（川原）</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>ペリオドントロジー（川原）</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>★シャープニング</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>★ルートプレーニング</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>★口腔内写真撮影（5枚法）</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>★歯科予防処置のまとめ①（歯、歯周組織の検査）</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>★歯科予防処置のまとめ②（スケーリング）</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>★歯科予防処置のまとめ③（小窓裂溝填塞法、フッ化物応用）</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>★カリエスリスク検査</td> </tr> </table>	1・2・3	歯科医療の価値（川原）	4・5・6	カリオロジー（川原）	7・8・9	ペリオドントロジー（川原）	10・11・12	★シャープニング	13・14・15	★ルートプレーニング	16・17・18	★口腔内写真撮影（5枚法）	19・20・21	★歯科予防処置のまとめ①（歯、歯周組織の検査）	22・23・24	★歯科予防処置のまとめ②（スケーリング）	25・26・27	★歯科予防処置のまとめ③（小窓裂溝填塞法、フッ化物応用）	28・29・30	★カリエスリスク検査
1・2・3	歯科医療の価値（川原）																					
4・5・6	カリオロジー（川原）																					
7・8・9	ペリオドントロジー（川原）																					
10・11・12	★シャープニング																					
13・14・15	★ルートプレーニング																					
16・17・18	★口腔内写真撮影（5枚法）																					
19・20・21	★歯科予防処置のまとめ①（歯、歯周組織の検査）																					
22・23・24	★歯科予防処置のまとめ②（スケーリング）																					
25・26・27	★歯科予防処置のまとめ③（小窓裂溝填塞法、フッ化物応用）																					
28・29・30	★カリエスリスク検査																					
成績評価	川原博雄（30点） 下谷陽子（70点） 実技評価(30) 小テスト(25) 提出物,身だしなみの評価(15)																					
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論																					

分 野	専門分野	【一般目標】
科 目 名	37. 歯科保健指導論 I (講義)	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識を修得する。
単 位	1	
時 間 数	15	
授業形態	講義	【到達目標】
開講年度	2025年度	1. 歯科保健指導の意義と特性を説明できる。
時 期	前期	2. 口腔の構造と機能、全身状態の把握方法を説明できる。
		3. う蝕と歯周病の原因と進行、予防方法を説明できる。
		4. 食品と歯科疾患の関連性を説明できる健康教育に必要な情報を収集できる。
		5. 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士として実務経験あり	1・2・3 歯科保健指導論の概要 4・5・6 口腔の基礎知識歯科保健指導の基礎知識 7・8・9 う蝕と歯周病の基礎知識
成績評価	学科試験(100)	10・11・12 食生活指導のための基礎知識 13・14・15 食品とう蝕誘発性・保健行動支援のための基礎知識
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論	

分 野	専門分野	【一般目標】
科 目 名	37. 歯科保健指導論 I (演習)	健康とは何か、社会制度や口腔保健からみた健康を学び、自らの健康について考える。歯・口腔にとどまらず、人々の健康や生活に目を向け広い視野に立って、歯科衛生士として様々なライフステージにある対象者の健康を支援する技術を修得する。
単 位	2	
時 間 数	60	
授業形態	演習	【到達目標】
開講年度	2025年度	1. 健康とそれを取り巻く社会環境との関係を説明できる。
時 期	前期	2. 情報収集の目的や得られる情報を説明できる。
		3. 全身の健康状態、口腔の問題を把握できる。
		4. 口腔健康管理を行うための歯科衛生介入計画を立案できる。
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士として実務経験あり	【授業計画】
成績評価	主要三科の一斉実技試験(30) 項目ごとの実技評価(40) 小テスト(15)・提出物(15)	1・2・3 健康ってなに？・個人を取り巻く環境 31・32・妊娠婦・乳幼児/分析指標/口腔衛生管理指導 4・5・6 生活習慣と健康・健康への取り組み 34・35・学齢期/分析指標/口腔衛生管理の指導 7・8・9 健康を支え合う仕組み・口腔保健から見た健康 37・38・青年期/分析指標/口腔衛生管理の指導 10・11・12 実習に向けての事前学習 40・41・成人期/分析指標/口腔衛生管理指導/テスト 13・14・15 歯科衛生介入「全身・口腔のアセスメント」★相互 43・44・老年期/口腔衛生管理と生活習慣指導/テスト 16・17・18 歯科衛生介入「PCRと術者磨き」★相互 46・47・要介護者/機能管理ストレミングメト指導/テスト 19・20・21 歯科衛生過程の進め方 49・50・症例検討 22・23・24 歯科衛生過程の進め方 52・53・まとめ・実技試験練習 25・26・27 患者からの情報収集・全身状態の把握 55・56・口腔衛生に関わる指導「知覚過敏症と歯磨剤」(ペラン45分) 28・29・30 器質的問題の把握/機能的/分析のためのデータ 58・59・地域歯科保健活動の実際「小学校リハーサル」
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論 ★白衣着用	

分 野	専門分野		【一般目標】 健康教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。
科 目 名	38. 歯科保健指導論 II (講義)		
单 位	1		
時 間 数	15		
授業形態	講義		【到達目標】 1. 健康教育の対象と場の特徴を概説できる。 2. 健康教育の評価を説明できる。 3. 健康教育活動の方法を説明できる。 4. 健康教育に必要な情報を収集できる。
開講年度	2025年度		
時 期	前期		
担当講師 実務経験	増田 洋子 歯科衛生士としての実務経験あり	授業概要	【授業計画】 1・2・3 ヘルスプロモーションの考え方／地域におけるヘルスプロモーション 4・5・6 健康教育の概要・健康教育の進め方／健康教育の方法(展開例)イオンハミガキ大会 7・8・9 災害時の歯科保健医療 10・11・12 地域歯科保健活動のフィールド・対象者の特性とニーズの把握（学齢期） 13・14・15 地域歯科保健活動のフィールド・対象者の特性とニーズの把握（老年期）・情報収集（小学校・老人デイ）★提出物
成績評価	学科試験(90) 提出物 (10)		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分 野	専門分野		【一般目標】 対象集団の口腔健康支援ができる歯科衛生士になるために、集団歯科保健指導の計画、実施ができる。
科 目 名	38. 歯科保健指導論 II (演習)		
单 位	2		
時 間 数	60		
授業形態	演習		【到達目標】 1. 対象集団の歯科疾患の発生リスクが説明できる。 2. 生活行動の問題を解決する指導計画を立案できる。 3. 保健行動の動機づけとなる媒体が作成できる。 4. 歯科保健指導案に基づいた歯科保健指導ができる。 5. 終了後改善事項を提案し、改善策を協議できる。
開講年度	2025年度		
時 期	後期		
担当講師 実務経験	船奥律子【保育園】 増田洋子【小学校】 歯科衛生士としての実務経験あり	授業概要	【授業計画】 1・2・3 【保育園】利用者の対象把握及び情報収集・指導案作成 4・5・6 【保育園】指導用媒体の準備 7・8・9 【保育園】リハーサル★実技試験 10・11・12 【小学校】指導案作成（主題・ねらい・指導内容の検討） 13・14・15 【小学校】指導案作成（主題・ねらい・指導内容の検討） 16・17・18 【小学校】指導に必要な原稿・媒体・資料の作成 19・20・21 【小学校】指導に必要な原稿・媒体・資料の作成 22・23・24 【小学校】リハーサル・指導案の検討★確認小テスト 25・26・27 【小学校】★実技試験（1・3年生への発表） 28・29・30 【小学校】指導内容の振り返り
成績評価	主要三科の一斉実技試験(30) 項目ごとの実技評価(小学校25/デイ15) 小テスト(小学校15)・提出物(小10/デ5)		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分 野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	39. 歯科保健指導論Ⅲ (講義)		これまで学んだ歯科保健指導の基礎と、臨床での体験をまとめ、資格試験に対応できる知識を習得することを目的とする。
単 位	1		【到達目標】
時 間 数	15		1. 食品と歯科疾患の関連性を説明できる。 2. 行動変容の手法を説明できる。 3. 各ライフステージにおける課題と指導の要点を説明できる。
授業形態	講義		【授業計画】
開講年度	2025年度		1・2・3 歯科保健指導の概要のまとめ
時 期	後期		4・5・6 歯科保健指導の基礎知識のまとめ
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士としての実務経験あり		7・8・9 対象別の歯科衛生介入のまとめ 10・11・12 対象別の歯科衛生介入のまとめ 13・14・15 地域歯科保健活動のまとめ
成績評価	学科試験(100)		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論		

分 野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科 目 名	39. 歯科保健指導論Ⅲ (演習)		歯科衛生アセスメント、歯科衛生介入としての歯科保健指導の技術をより深く学び、臨床での応用展開につなげることを目的とする。
単 位	1		【到達目標】
時 間 数	30		1. 口腔衛生の評価・指導ができる。 2. 口腔機能の評価・訓練ができる。 3. 生活習慣の改善につながる働きかけができる。 4. 要介護者への口腔健康管理が行える。 5. 口腔を体の中の一部分としてとらえ、健康を支援する視点をもてる。
授業形態	演習		【授業計画】
開講年度	2025年度		1・2・3 全身と口腔のアセスメント
時 期	前期・後期		4・5・6 口腔の機能的問題の把握 7・8・9 口腔機能管理に関わる指導 10・11・12 口腔衛生管理に関わる指導
担当講師 実務経験	増田洋子(歯科衛生士) 船奥律子(歯科衛生士) 歯科衛生士としての実務経験あり		13・14・15 生活習慣の指導 16・17・18 生活習慣の指導 19・20・21 口腔衛生管理に関わる指導「歯磨剤」(日本歯磨工業会) 22・23・24 義歯装着者への指導「義歯ケア」(ハリカン45分) 25・26・27 在宅療養者の口腔健康管理①(船奥) 28・29・30 在宅療養者の口腔健康管理②(船奥)
成績評価	実技評価(30) 確認テスト(40) 提出物(30)		
教 科 書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論 (講師参考資料:歯科衛生士になるための臨地実習サポートブック)		

分 野	専門分野	
科 目 名	40. 歯科診療補助論 I (講義)	
単 位	1	
時 間 数	15	
授業形態	講義	
開講年度	2025年度	
時 期	前期	
担当講師 実務経験	酒井 みね 歯科衛生士としての臨床経験がある教員が、歯科診療の概要と基本的な歯科診療補助の知識と技能を指導しながら、臨床へのイメージを高める科目である。	授業概要
成績評価	科目終了時の学科試験 (100)	
教 科 書 参考資料	歯科診療補助論 (医歯薬出版) 歯科材料(医歯薬出版) 歯科機器(医歯薬出版)	

分 野	専門分野	
科 目 名	40. 歯科診療補助論 I (演習)	
単 位	2	
時 間 数	60	
授業形態	演習	
開講年度	2025年度	
時 期	前期・後期	
担当講師 実務経験	酒井 みね 歯科衛生士としての臨床経験がある教員が、歯科診療の概要と基本的な歯科診療補助の知識と技能を指導しながら、臨床へのイメージを高める科目である。	授業概要
成績評価	実技試験 (30) 項目ごとの実技評価 (40) 確認テスト (15) その他 (15)	
教 科 書 参考資料	歯科診療補助論 (医歯薬出版) 歯科材料(医歯薬出版) 歯科機器(医歯薬出版)	

分 野	専門分野		【一般目標】
科 目 名	41. 歯科診療補助論 II (講義)		歯科衛生士として病態の判断・指導ができるようになるために、臨床検査の基本的知識と病気をもつ患者に対応するうえで必要な態度と技能を修得する。
单 位	1		
時 間 数	15		
授業形態	講義		【到達目標】
開講年度	2025年度		1. 各種生体検査を概説できる。
時 期	前期		2. 臨床検査データを理解し、病態の判断ができる。
担当講師 実務経験	岡本充栄 臨床検査技師として実務経験あり	授業概要	【授業計画】
		1・2・3	臨床検査と歯科衛生士の役割、生理機能検査
		4・5・6	採血、血液学的検査、感染症の検査
		7・8・9	肝機能の検査、腎機能の検査、糖尿病の検査
		10・11・12	代謝、内分泌疾患の検査、免疫・血清学的検査、病理学的検査
成績評価	科目終了時の学科試験(100)	13・14・15	画像検査、口腔領域の臨床検査、主な疾患と検査項目
教 科 書 参考資料	臨床検査		

分 野	専門分野		【一般目標】
科 目 名	41. 歯科診療補助論 II (演習)		1学年で学んだ基本的な知識や技術を応用できるようになるために、より臨床的な講義や演習を行い知識や技術を修得する。
单 位	2		【到達目標】
時 間 数	60		1. 治療の流れと目的を理解できる。 6. 既製冠を用いたテンポラリークラウンを作製できる。
授業形態	演習		2. 治療の手順に沿った器材を準備することができる。 7. 感染対策について説明できる。
開講年度	2025年度		3. 治療内容に応じた補助ができる。 8. 採血法について説明できる。
時 期	前期・後期		4. 歯科材料の正しい取り扱いができる。 9. 簡単な保険請求作業ができる。
担当講師 実務経験	酒井 みね（歯科衛生士） 廣島佑香（歯科医師） 藤原茂樹（歯科医師） 各人記載の資格において実務経験あり	授業概要	5. 寒天・アルジネート連合印象採得ができる。 【授業計画】 ※★は白衣着用
		1・2・3	1年次の復習／口腔内診査 31・32・矯正治療時の診療補助
		4・5・6	保存修復時の診療補助 34・35・小児歯科治療時の診療補助
		7・8・9	歯内療法時の診療補助 37・38・障害者歯科治療時の診療補助
		10・11・12	歯周外科治療の診療補助／補綴治療時の診療補助 40・41・★歯科臨床と診療補助の演習
成績評価	実技試験（30） 項目ごとの実技評価（40） 確認テスト（15） その他（レポート・課題）（15）	13・14・15	補綴治療時の診療補助 43・44・★ミュゼホワイトニング
		16・17・18	★精密印象採得① 46・47・★ミュゼホワイトニング
		19・20・21	★精密印象採得② 49・50・感染対策①（廣島佑香）
		22・23・24	★テンポラリークラウンの作製① 52・53・感染対策②（廣島佑香）
		25・26・27	口腔外科治療時の診療補助 55・56・★採血法演習（藤原茂樹）
		28・29・30	歯科麻酔時の診療補助 58・59・保険請求事務
教 科 書 参考資料	歯科診療補助論（医歯薬出版） 歯科材料（医歯薬出版） 歯科機器（医歯薬出版）		

分野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科目名	42. 歯科診療補助論Ⅲ (講義)		歯科衛生士として臨床現場で即戦力となるために、3年間の復習を行い、診療の流れに沿った補助に関する知識を習得する
単位	1		【到達目標】
時間数	15		1. 診療の手順を説明できる。 2. 診療内容に応じた器材を説明できる。 3. 診療補助の注意点を列挙できる。 4. 器具器材の取り扱い方法と取り扱い時の注意点を説明できる。
授業形態	講義		【授業計画】
開講年度	2025年度		1・2・3 歯科診療補助論まとめ（概論・歯科材料）
時期	後期		4・5・6 歯科診療補助論まとめ（保存修復・歯内療法）
担当講師	酒井 みね（歯科衛生士）		7・8・9 歯科診療補助論まとめ（補綴・口腔外科・歯科麻酔学）
実務経験	歯科衛生士としての実務経験あり		10・11・12 歯科診療補助論まとめ（矯正・小児）
成績評価	講義終了時の学科試験（100点）		13・14・15 歯科診療補助論まとめ（高齢者・障害者）
教科書	歯科診療補助論（医歯薬出版）		
参考資料	歯科材料（医歯薬出版）歯科機器（医歯薬出版） ※その他必要に応じて連絡する		

分野	専門分野	授業概要	【一般目標】
科目名	42. 歯科診療補助論Ⅲ (演習)		さまざまなライフステージや全身疾患を有する患者の歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎的知識、技術および態度を習得する
単位	1		【到達目標】
時間数	30		1. 主な全身疾患の特徴と診療での注意点を説明できる 2. 周術期における口腔機能管理の概要を述べることができる 3. 歯科訪問診療の概要を述べることができる 4. 治療に応じた歯科診療補助を実施できる 5. 口腔機能管理の概要を説明できる
授業形態	演習		【授業計画】 ※★は白衣着用
開講年度	2025年度		1・2・3 ★全顎・連合印象採得と石膏注入① 31・32・全身疾患を有する患者への対応④
時期	前期・後期		4・5・6 ★全顎・連合印象採得と石膏注入② 34・35・周術期における歯科診療の補助
担当講師	酒井 みね（歯科衛生士）		7・8・9 ★全顎・連合印象採得と石膏注入③ 37・38・★歯科訪問診療における対応（藤中恵子）
実務経験	井内孝次（歯科技工士）		10・11・12 ★スタディモデル作製（井内孝次） 40・41・口腔機能管理①
	篠永ゆかり（歯科医師）		13・14・15 ★TeC作製（印象体を利用する方法） 43・44・口腔機能管理②
	藤中恵子（歯科医師）		16・17・18 ★TeC作製（直接法） 46・47・普通救命講習！
	末光妙子（歯科医師）		19・20・21 歯肉排除法・歯周パックの取り扱い 49・50・小児へのメインテナンス業務（篠永ゆかり）
成績評価	各人記載の資格において実務経験あり		22・23・24 全身疾患を有する患者への対応① 52・53・★ホワイトニング①（末光妙子）
	実技テスト（30）		25・26・27 全身疾患を有する患者への対応② 55・56・★ホワイトニング②（末光妙子）
	項目ごとの実技評価（40）		28・29・30 全身疾患を有する患者への対応③ 58・59・まとめ
	確認テスト（15）		
	その他（レポート・課題等）（15）		
教科書	歯科診療補助論（医歯薬出版）		
参考資料	歯科材料（医歯薬出版）歯科機器（医歯薬出版） ※その他必要に応じて連絡する		

分 野	専門分野	
科 目 名	43. 臨地実習 I	【一般目標】
単 位	1	歯科臨床における歯科衛生士の役割を理解するため、歯科診療の臨床現場を見学し、どのような業務が行われているのかを体験をとおして学ぶ。
時 間 数	45	【到達目標】
授業形態	実習	1) 歯科衛生士の日常業務を述べる 2) 歯科診療の内容を知る 3) 患者さんはどのように治療を受けているかを知る 4) 各スタッフがそれぞれどんな役割を果たしているかを理解する。 5) スタッフ患者さんとコミュニケーションをとることができる。
開講年度	2025年度	
時 期	後期	
担当講師 実務経験	川人貴子 花枝良枝 他	【授業概要】 歯科診療所での実習
成績評価	実習記録の評価(50) 評価表(40) 出席点(10) 時間数すべて終了が単位認定条件となる	
教 科 書 参考資料	臨地実習実施要項 臨床実習ハンドブック 臨地実習ハンドブック	

分 野	専門分野	
科 目 名	44. 臨地実習 II	【一般目標】 修得した基本的な知識及び技能を、臨床実習現場でさらに高めるとともに、患者さんやさまざまな歯科医療従事者と深くかかわりをもつことで、歯科衛生士としての自覚を高める。
単 位	10	【到達目標】 1. 歯科診療が臨床の場でどのように展開されているのかを理解する。 2. 知識の裏づけのもとに原則、基本をふまえて実習を行う。 3. 歯科医療を支える他職種の業務を理解しその中の歯科衛生士の役割を認識する。 4. 患者を理解し患者の変化を察知できる「観察する目」と「感じる心」を深める。
時 間 数	450	
授業形態	実習	
開講年度	2025年度	
時 期	前期・後期	
担当講師 実務経験	川人貴子 花枝良枝 他	【授業概要】 職業人としての責任とマナーを土台として専門領域に関する知識の修得と、技術の修練を積み重ね、将来の現場に応用展開できるような能力を養う。
成績評価	実習記録の評価(50) 評価表(40) 出席点(10) 時間数すべて終了が単位認定条件となる	【到達目標】 1. 基礎から応用にステップをふんだ上で最も適切な工夫応用の効いた手技ができる。 2. 知識の裏づけのもとに原則、基本をふまえて実習を行う。 3. 患者のニーズを理解し歯科医師と患者の相互理解の仲介者となれるよう努力する。 4. 歯科診療時のチームワークを緊密にし歯科衛生士として自分の役割を責任をもって果たす。
教 科 書 参考資料	臨地実習要項 臨床実習ハンドブック 臨地実習ハンドブック	【授業計画】 前期 歯科診療所での実習 後期 徳島大学病院での実習 臨地 高齢者・障害者臨地実習/小学校歯科保健指導/地域歯科保健事業

分 野	専門分野	
科 目 名	45. 臨地実習III	【一般目標】
単 位	10	将来の職場で活躍できる力を身につけるために、自ら高い目標を掲げ、自律精神を養い、専門的に歯科衛生業務を学ぶ。
時 間 数	450	【到達目標】
授業形態	実習	①専門性を高めたい分野を明確にする。 ②それぞれの分野での専門的な歯科衛生業務を学ぶ。 ③臨地実習にかかわるスタッフやさまざまな職種と連携を図る。
開講年度	2025年度	【授業計画】
時 期	前期	前期 歯科診療所での実習 後期 歯科診療所での実習
担当講師 実務経験	川人貴子 花枝良枝 他	
成績評価	実習記録の評価(50) 評価表(40) 出席点(10) 時間数すべて終了が単位認定条件となる	
教 科 書 参考資料	臨地実習要項 臨床実習ハンドブック 臨地実習ハンドブック	

分 野	選択分野																					
科 目 名	46. 臨地実習学習法A																					
单 位	1																					
時 間 数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	船奥律子 歯科衛生士としての実務経験あり	<p>授業概要</p> <p>【一般目標】 臨床実習IIの学びを充実させるために、実習の開始前・実習中・終了後の学び方を学習し、主体性を持って学ぶことができる能力を修得する。</p> <p>【到達目標】 1. オリエンテーションを理解できる。 2. 臨地実習施設での学び方を学修する。 3. 実習に必要な事前学習についてまとめることができる。 4. 臨地実習で学んだことをまとめることができる。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>オリエンテーション①（実習施設・臨地実習要項）</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>オリエンテーション②（実習指導者による実習での学びのヒント）★レポ</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>事前学習①（歯科診療所以外での臨地実習の学び方）</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>事前学習②（臨床での学び方、実習項目チェック表の活用法等）</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>事前学習③（記録、実習準備等）</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>臨地実習II-1、II-2振り返り（歯科診療所、以外の実習施設）★レポ</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>オリエンテーション③（徳島大学病院実習）</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>事前学習④（レポート、記録等）★レポ</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>実習中の学習（学習フォローアップ）</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>臨地実習II-3の振り返り（徳島大学病院実習）★レポ</td> </tr> </table>	1・2・3	オリエンテーション①（実習施設・臨地実習要項）	4・5・6	オリエンテーション②（実習指導者による実習での学びのヒント）★レポ	7・8・9	事前学習①（歯科診療所以外での臨地実習の学び方）	10・11・12	事前学習②（臨床での学び方、実習項目チェック表の活用法等）	13・14・15	事前学習③（記録、実習準備等）	16・17・18	臨地実習II-1、II-2振り返り（歯科診療所、以外の実習施設）★レポ	19・20・21	オリエンテーション③（徳島大学病院実習）	22・23・24	事前学習④（レポート、記録等）★レポ	25・26・27	実習中の学習（学習フォローアップ）	28・29・30	臨地実習II-3の振り返り（徳島大学病院実習）★レポ
1・2・3	オリエンテーション①（実習施設・臨地実習要項）																					
4・5・6	オリエンテーション②（実習指導者による実習での学びのヒント）★レポ																					
7・8・9	事前学習①（歯科診療所以外での臨地実習の学び方）																					
10・11・12	事前学習②（臨床での学び方、実習項目チェック表の活用法等）																					
13・14・15	事前学習③（記録、実習準備等）																					
16・17・18	臨地実習II-1、II-2振り返り（歯科診療所、以外の実習施設）★レポ																					
19・20・21	オリエンテーション③（徳島大学病院実習）																					
22・23・24	事前学習④（レポート、記録等）★レポ																					
25・26・27	実習中の学習（学習フォローアップ）																					
28・29・30	臨地実習II-3の振り返り（徳島大学病院実習）★レポ																					
成績評価	事前学習レポート（60） 実習報告レポート（40）																					
教 科 書 参考資料	臨地実習ハンドブック（クインテッセンス出版） 臨床実習ハンドブック（クインテッセンス出版） デンタルスタッフのための歯科保険診療ハンドブック																					

分 野	選択分野																					
科 目 名	47. 臨地実習学習法B																					
单 位	1																					
時 間 数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時 期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士としての実務経験あり	<p>授業概要</p> <p>【一般目標】 専門的な歯科衛生士業務を修得するために、選択したコースの実習内容を計画し、その学びを充実させることを目的とする。実習の開始前、実習中、終了後の学び方を学習し、臨床・臨地実習に対して主体性を持つ。</p> <p>【到達目標】 1. 実習の目的に合わせて実習計画を立てることができる。 2. 実習に必要な資料を事前に調べまとめることができる。 3. 実習の学びを国試問題へつなげパワーポイントにまとめ、発表できる。 4. 自己評価表を使い、実習の振り返りができる。</p> <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>オリエンテーション・実習準備</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>事前学習・実習記録の書き方</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>自己評価・振り返り</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>振り返り学習①</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>振り返り学習②</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>振り返り学習③</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>振り返り学習④</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>発表準備</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>スライド作成</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>スライド作成・リハーサル</td> </tr> </table>	1・2・3	オリエンテーション・実習準備	4・5・6	事前学習・実習記録の書き方	7・8・9	自己評価・振り返り	10・11・12	振り返り学習①	13・14・15	振り返り学習②	16・17・18	振り返り学習③	19・20・21	振り返り学習④	22・23・24	発表準備	25・26・27	スライド作成	28・29・30	スライド作成・リハーサル
1・2・3	オリエンテーション・実習準備																					
4・5・6	事前学習・実習記録の書き方																					
7・8・9	自己評価・振り返り																					
10・11・12	振り返り学習①																					
13・14・15	振り返り学習②																					
16・17・18	振り返り学習③																					
19・20・21	振り返り学習④																					
22・23・24	発表準備																					
25・26・27	スライド作成																					
28・29・30	スライド作成・リハーサル																					
成績評価	提出物の評価 ①②③④評価 報告会での発表																					
教 科 書 参考資料	プリントを配布します 臨床実習ハンドブック 臨地実習ハンドブック																					

分野	選択分野																					
科目名	48. 専門分野学習法A																					
単位	1																					
時間数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	下谷陽子 歯科衛生士としての実務経験あり	<p>【一般目標】</p> <p>専門分野である歯科衛生学に関心を持ち、効果的、積極的に学習する方法を身に付ける。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題について教科書等を活用して調べる 調べた内容の要点をまとめる 問題集を活用し、応用問題に取り組む 学科試験合格のための勉強法をつかむ 国家試験に合格するための学習法を身に付ける <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>専門分野の学習概要(入学オリエンテーション)</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>学習の要点、調べ方、まとめ方、</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>白衣合わせ、歯科健診</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>国家試験勉強法(勉強合宿)</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>国家試験勉強法(勉強合宿)</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>国家試験勉強法(勉強合宿)</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>国家試験勉強法(勉強合宿)</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>学科試験対策</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>歯科衛生士就職ガイド</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>歯科衛生士就職ガイド</td> </tr> </table>	1・2・3	専門分野の学習概要(入学オリエンテーション)	4・5・6	学習の要点、調べ方、まとめ方、	7・8・9	白衣合わせ、歯科健診	10・11・12	国家試験勉強法(勉強合宿)	13・14・15	国家試験勉強法(勉強合宿)	16・17・18	国家試験勉強法(勉強合宿)	19・20・21	国家試験勉強法(勉強合宿)	22・23・24	学科試験対策	25・26・27	歯科衛生士就職ガイド	28・29・30	歯科衛生士就職ガイド
1・2・3	専門分野の学習概要(入学オリエンテーション)																					
4・5・6	学習の要点、調べ方、まとめ方、																					
7・8・9	白衣合わせ、歯科健診																					
10・11・12	国家試験勉強法(勉強合宿)																					
13・14・15	国家試験勉強法(勉強合宿)																					
16・17・18	国家試験勉強法(勉強合宿)																					
19・20・21	国家試験勉強法(勉強合宿)																					
22・23・24	学科試験対策																					
25・26・27	歯科衛生士就職ガイド																					
28・29・30	歯科衛生士就職ガイド																					
成績評価	出席、小テスト、提出物(100)																					
教科書 参考資料	指定された教科書 問題集、小辞典等																					

分野	選択分野																					
科目名	49. 専門分野学習法B																					
単位	1																					
時間数	30																					
授業形態	演習																					
開講年度	2025年度																					
時期	前期・後期																					
担当講師 実務経験	増田洋子 歯科衛生士としての実務経験あり	<p>【一般目標】</p> <p>これまでの基礎知識を補いつつ、臨床で学んだことを結びつけ、知識を確かなものとする。資格試験にも対応できる自分に合った学習方法を確立する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 自分の取り組むべき課題を見つける。 教科書から答えを見つけ、要点をまとめる。 繰り返しの学習で、知識が身についたかどうかを確かめる。 学科試験合格のための自分に合った勉強法を見つける。 学習計画を立てる。 <p>【授業計画】</p> <table border="1"> <tr> <td>1・2・3</td> <td>課題提出・確認テスト・解説・見直し・シラバス解説</td> </tr> <tr> <td>4・5・6</td> <td>オリエンテーション・国試までのスケジュール・学習計画</td> </tr> <tr> <td>7・8・9</td> <td>学習の要点、調べ方、まとめ方</td> </tr> <tr> <td>10・11・12</td> <td>学習の要点、調べ方、まとめ方</td> </tr> <tr> <td>13・14・15</td> <td>学習の要点、調べ方、まとめ方</td> </tr> <tr> <td>16・17・18</td> <td>学習の要点、調べ方、まとめ方</td> </tr> <tr> <td>19・20・21</td> <td>国家試験勉強法</td> </tr> <tr> <td>22・23・24</td> <td>国家試験勉強法</td> </tr> <tr> <td>25・26・27</td> <td>国家試験勉強法(薬理学)藤原</td> </tr> <tr> <td>28・29・30</td> <td>国家試験勉強法(解剖学)馬場</td> </tr> </table>	1・2・3	課題提出・確認テスト・解説・見直し・シラバス解説	4・5・6	オリエンテーション・国試までのスケジュール・学習計画	7・8・9	学習の要点、調べ方、まとめ方	10・11・12	学習の要点、調べ方、まとめ方	13・14・15	学習の要点、調べ方、まとめ方	16・17・18	学習の要点、調べ方、まとめ方	19・20・21	国家試験勉強法	22・23・24	国家試験勉強法	25・26・27	国家試験勉強法(薬理学)藤原	28・29・30	国家試験勉強法(解剖学)馬場
1・2・3	課題提出・確認テスト・解説・見直し・シラバス解説																					
4・5・6	オリエンテーション・国試までのスケジュール・学習計画																					
7・8・9	学習の要点、調べ方、まとめ方																					
10・11・12	学習の要点、調べ方、まとめ方																					
13・14・15	学習の要点、調べ方、まとめ方																					
16・17・18	学習の要点、調べ方、まとめ方																					
19・20・21	国家試験勉強法																					
22・23・24	国家試験勉強法																					
25・26・27	国家試験勉強法(薬理学)藤原																					
28・29・30	国家試験勉強法(解剖学)馬場																					
成績評価	提出物・取り組み																					
教科書 参考資料	歯科予防処置論・歯科保健指導論																					

分 野	選択分野		【一般目標】
科 目 名	50. ホスピタリティ		医療の場では医療者も患者も尊厳をもって病気を治すために共に歩む関係である。互いを認め合い、より良い人間関係を築くために、社会人としての心身を整え、おもてなしの心と接遇、リラクゼーションの技術を学ぶ。
单 位	1		【到達目標】
時 間 数	30		1. 適切な敬語が使える。 2. ビジネスマナーを身に付ける。 3. 教えを理解したうえでヨガ、ピラティスを体験する。 4. 患者が癒される診療室の環境を整えることができる。 5. 患者が癒されるリラクゼーションの技術を身に付ける。
授業形態	演習		【授業計画】
開講年度	2025年度		1・2・3 就職活動支援（履歴書の書き方・面接の受け方） (森本)
時 期	前期・後期		4・5・6 就職活動支援（模擬面接） (森本)
担当講師 実務経験	森本みどり（キャリアコンサルタント）		7・8・9 患者対応時のホスピタリティ (森本)
	藤中恵子（歯科医師）		10・11・12 電話対応時のホスピタリティ (森本)
	丸山葉鼓（フローティング講師）		13・14・15 ヨガの歴史と教え（八支則）・呼吸法と瞑想（チア） (藤中)
	小松原富美（歯科医師）		16・17・18 ピラティスの歴史とコアの解剖学・ピラティスの実践 (藤中)
成績評価	それぞれの職種で実務経験あり		19・20・21 心地よい診療室づくり（アロマテラピー） (丸山)
	授業への参加・出席状況・課題提出・試験・態度・作品の作成		22・23・24 心地よい診療室づくり（季節に合わせたディスプレイ） (丸山)
			25・26・27 リラクゼーション (小松原)
教 科 書 参考資料	プリントを配布します		28・29・30 リラクゼーション (小松原)
	ヨガマットまたはバスタオル		

分 野	選択分野		【一般目標】
科 目 名	51. 介護技術		要介護者への歯科衛生業務を安全に行うために、介護や社会福祉サービスの知識や技術を修得する。
单 位	3		【到達目標】
時 間 数	130		1. 介護を必要とする要介護者の説明ができる。 2. 介護に関するボディメカニクスが説明できる。 3. 整容の介護ができる。 4. 移動・移乗の介護ができる。 5. 食事の介護ができる。 6. 入浴清潔保持の介護ができる。 7. 排泄の介助ができる。
授業形態	講義		【授業計画】
開講年度	2025年度		研修開始前にオリエンテーションを開催し、資料を配布する。
時 期	後期		学校ホームページに「介護職員初任者研修」について掲載公表しており、その内容は以下のとおりである。
担当講師 実務経験	石田優季 他		(1) 介護職員初任者研修について (2) 講義予定表 (3) 講師一覧
	この科目は各単元実務経験のある教員によるオムニバス形式で構成される。介護員養成研修事業所で徳島県知事に認可されており、実務経験の詳細は学校ホームページに掲載公表している。		
成績評価	学科試験(80) 振り返り発表(15) レポート(5)		
	合格者には「終了証明書」を授与		
教 科 書 参考資料	介護職員初任者研修テキスト (ミネルヴァ書房)		

